



横綱白鵬関が やってきた (6月18日)



大相撲の横綱白鵬関ら11人の力士が、西部デイサービスセンター「きらめき」と障がい者支援センター「ほおずき作業所」を訪問しました。

白鵬関が所属する宮城野部屋が、長浜市内で合宿を行い、その稽古の合間に施設を慰問。施設の利用者らは、平尾市長とともに、力士との握手や記念撮影を楽しみました。利用者から名古屋場所の活躍を期待する声援もあがるなど、利用者らは白鵬関らの訪問に大喜びでした。

災害時のし尿・ごみ 収集を協力 (6月23日)



「災害時における一般廃棄物の収集運搬に関する協定」を、市と4業者1組合（喜多嘉和株式会社、有限会社キタセイ、株式会社ハウステクノ関ヶ原、橋本クリーン産業株式会社および湖北清掃事業協同組合）が締結しました。

この協定は、災害時に発生するし尿やごみなどを事業者が収集運搬するというもの。事業者には、災害発生から1週間は無償で行っていただき、市の防災訓練にも参加いただきます。

坂田小学校校外学習 (6月25日)



坂田小学校では総合学習の一環として5つの地域に分かれて、校外学習を行っています。

この日は6年生91人のうち19人が世継の蛭子神社を訪れ、世継まちづくり委員会のメンバーたちから地域の歴史を学びました。世継の七夕伝説の説明を受けた後、伝説を物語にした紙芝居の読み聞かせに児童たちは興味深く聞きっていました。その後、短冊に思い思いの願い事を書き、笹の葉に飾りました。



米原市長 平尾道雄

私たちが日本人にとって特別な意味を持つ8月を迎えます。家族との暮らしや地域での営みの中で、6日の広島、9日の長崎、15日の終戦、そして沖繩「慰霊の日」6月23日「問いかける核の脅威、戦争の愚かさ、平和憲法の尊さをあらためて考えていただきたい」と思います。

戦争の残酷さや悲惨な事実に向き合うのは人々が暮らす地域、自治の現場です。国会でも政府でもありません。戦争ができる国、体制づくりの当事者の意識があまりにも軽すぎます。

戦争は多くの人々の命を奪います。次々に生まれてくる人々の運命も変えてしまいます。戦争による犠牲とは、生まれるはずの命が生まれなかったことにながっています。戦争は多くの命を奪います。今生きている人だけでなく、次に生まれてくる人々の運命も変えてしまいます。

戦争を軽いものとして考える人々が増えていくように思えてなりません。一方、先の戦争を経験し、その悲惨さを身をもって体験した人たちが少なくなりつつあります。



市政言

